【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成22年6月17日(2010.6.17)

【公表番号】特表2006-524524(P2006-524524A)
【公表日】平成18年11月2日(2006.11.2)
【年通号数】公開・登録公報2006-043
【出願番号】特願2006-505303(P2006-505303)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｆ　2/84　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｍ　29/00

【誤訳訂正書】
【提出日】平成22年4月20日(2010.4.20)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ステント搬送システムを製造するに際して搬送鞘部材に自己拡張型ステントを装填する方法であって、放射方向に拘束された搬送形状を取っているステントが、ステント設置部位に搬送され、ステント設置部位で、鞘部材が引き出されてステントを解放し、その部位でステントを放射方向に拡張させるようにするために、軸線方向に前進させられることで鞘部材の中に入れられる、搬送鞘部材に自己拡張型ステントを装填する方法において、
（ｉ）ステントを被覆ステントとして設ける段階を含み、被覆ステントは、管腔外被および非管腔外被の輪郭を定めている複数表面がステントの壁厚さ分だけ互いに間隔を離されているステント配列と、ステント配列に接着されて管腔外被の放射方向内側に位置している被覆材とから構成されており、
（ｉｉ）ステントの管腔内にステントプッシャを設ける段階を含み、ステントプッシャはステント管腔の長さに沿って分布する、放射方向外向きに張出した突起部を設けており、
（ｉｉｉ）突起部が被覆材を変形させて、それでもなお、ステント配列の管腔外被が突起部によって放射方向に変形されないままであるまで、ステントを放射方向内向きに圧縮する段階と、
（ｉｖ）ステントプッシャに端部からの力を付与することにより圧縮状態のステントを前進させて鞘部材の中に入れ、ステントプッシャの突起部からステント配列へ押し力を被覆材に伝達させるようにする段階とを含んでいる、
ことを特徴とする方法。
【請求項２】
突起部を螺旋状に配置し、鞘部材の内側で、ステント管腔に対してステントプッシャを反対にねじることで、ステントの管腔からステントプッシャを引き出すことができるようにするようにした段階を更に含んでいることを特徴とする、請求項１に記載の方法。
【請求項３】
自己拡張型ステントと経皮経管型の搬送カテーテルを含む自己拡張型ステント搬送装置であって、前記経皮経管型の搬送カテーテルは、前記自己拡張型ステントを取り囲み、近位方向に引き出されるとステント設置部位でステントを解放する鞘部材と、鞘部材の内部に置かれて、鞘部材を引き出している間もステントをステント設置部位に保持するプッシャとを有している、自己拡張型ステント搬送装置において、

（i）プッシャはステントの管腔に沿って延びるとともに、ステント管腔の長さに沿って分布させられた放射方向外向きに張出した突起部を設けており、
（ii）ステントは、管腔外被および非管腔外被の輪郭を定める複数表面がステントの壁厚さ分だけ互いに間隔を離されているステント配列と、ステント配列に接着されて管腔外被の放射方向内側に位置している被覆材とから構成されている被覆ステントであり、
（iii）突起部が被覆材を変形させて、それでもなお、ステント配列の管腔外被が突起部によって放射方向に変形されないままであることを特徴とする、自己拡張型ステント搬送装置。
【請求項４】
前記ステント配列は金属製であり、前記被覆材は発泡ポリテトラフルオロエチレン製であることを特徴とする、請求項３に記載の自己拡張型ステント搬送装置。
【請求項５】
前記ステント配列は複数開口が設けられており、前記被覆材は複数開口を通して非管腔ステント被覆層に接着されていることを特徴とする、請求項３または請求項４に記載の自己拡張型ステント搬送装置。
【請求項６】
前記ステント配列はニッケルチタン形状記憶合金から形成されていることを特徴とする、請求項４または請求項５に記載の自己拡張型ステント搬送装置。
【請求項７】
前記突起部は螺旋状の渦巻き体であることを特徴とする、請求項３から請求項６のいずれか１項に記載の自己拡張型ステント搬送装置。
【請求項８】
先細り状の遠位先端部は前記鞘部材に設けられていることを特徴とする、請求項３から請求項７のいずれか１項に記載の自己拡張型ステント搬送装置。
【請求項９】
先細り状の遠位先端部は前記鞘部材より遠位で前記プッシャに設けられていることを特徴とする、請求項３から請求項７のいずれか１項に記載の自己拡張型ステント搬送装置。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０００１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０００１】
本発明は、一つの観点では、自己拡張型ステントを搬送用鞘部材に装填する方法に関するものであり、この方法では、放射方向に拘束された搬送形状を取っているステントが、ステント設置部位に搬送され、ステント設置部位で、鞘部材が引き出されてステントを解放し、ステントを放射方向に拡張させるようにするために、軸線方向に前進させられることで鞘部材（シース）の中に入れられる。別な観点では、本発明は、鞘部材と鞘部材内のプッシャ部材とを備えている経皮経管型の搬送用カテーテル内の自己拡張型ステントに関するものであり、鞘部材が近位方向に引き出されるとステントをステント設置部位で解放し、プッシャ部材は鞘部材の引き出し中にステント設置部位にステントを維持する。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１５】
本発明の一観点によれば、添付の特許請求の範囲の請求項１に記載されているような、搬送用鞘部材に自己拡張型ステントを装填する方法が提供される。
本発明の別な観点によれば、添付の特許請求の範囲の請求項３に記載されているような

、自己拡張型ステントと経皮経管型の搬送カテーテルを含む自己拡張型ステント搬送装置が提供される。